

銀輪亭
おもしろ自転車安全ばなし

銀輪亭倶楽部

銀輪亭の松さんと竹やんが繰り広げる自転車についての交通談義で交通ルール、安全な走行方法、自転車の点検などの知識を深めよう。自分が事故を起こすのを防止しましょう。事故に巻き込まれない対策をとりましょう。歩行者、自転車、自動車の迷惑をかけずに、安全で楽しく自転車に乗りましょう。

「自転車の交通ルール&マナー」編

1. 信号を守らなアカんと気が付いた
2. 自転車は、右側通行したらアカんのか？
3. 自転車は便利だな、歩行者になったり自転車になったり
4. けっこう自転車でも歩道を走ってるぞ
5. ルールはコミュニケーションとともに
6. うっかりしてしまう危険行為は何？

「自転車の安全な乗り方、走り方」編

1. 大きな交差点はどうやって横断したらいいのかな
2. 出会い頭に気をつけよ
3. そもそも車道のどこを走ると安全なの？
4. 道路にあるものの安全性を教えて

「自転車の安全装備」編

1. 自転車の点検で安全に自転車に乗ろう
2. もっと積極的な安全チェック方法は無いかな
3. 安全対策装備を高めよう

著者紹介

浜嶋鉦一郎

銀輪亭倶楽部代表監事

日本ボーイスカウト大阪連盟豊中第2団 団委員長

「自転車の交通ルール&マナー」編

1. 信号は、守らなあかんと気が付いた

竹やん：松さん、自転車に乗ってる人は免許証を持ってないから、信号無視をしても平気やなー。

松さん：確かに多いなあ。

竹やん：横断歩道の赤信号は、車や歩行者が通っていなかったら平気で渡ってしまう。道路交通法が変わったけど、人は何も変わってないわね。

松さん：それは、れっきとした「信号無視」だ。自転車は、車と同じように信号を守らないといけないよ。

竹やん：そうだろ。俺は守っているけど、隣に止まった自転車が左右を見ながらどんどん渡るんだな。歩行者も同じだけだな。

松さん：小さな道でも信号があれば、信号を守るのが当然だよ。

竹やん：これで、警察官に注意されたら、例の講習を受けないといけなくなるだろ。

松さん：講習か。そのことをよく知っているな。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：さすが竹やん、自転車運転者講習の対象となる危険行為の一番目に書いてある。

竹やん：だから、信号を守らないかんと気が付いたんよ。しかしなあ、現実はまだもっとひどいことをしよる。

松さん：どんなこと？

竹やん：車道で信号待ちをしていたらよ。後ろから来た自転車が、するすると前に出て行って、横断歩道を歩行車が渡っているのに、そこを横切って左側の歩道に入って行ったり、前にある横断歩道の中を右に走って行ったのよ。

松さん：安全そうな状況だと無茶苦茶な動きをするようだな。

竹やん：法律が変わっても何も変わっていないということや。どうにもならんわ。わいもちよっと勉強してるけど、他に聞きたいことがある。

松さん：なんだ、改まって。

竹やん：信号が無い道路で、道路の上に一時停止の表示があるやろ。

松さん：あるね。交差点では、どちらか一方の道路が優先道路となるように決められている。だから、優先道路でない道路面に一時停止の表示が書

かれてある。

竹やん：あれは、自動車のために道路の真ん中に書かれてあるから、端を通る自転車は守らなくてもいいと違うか。それに自転車はゆっくり走っているから、走りながら車を確認できるぞ。

松さん：そうはいかん。自転車は車ということが、まだしっかり分かっていないようだな。

竹やん：細い道路は、今までだって車道とか歩道とか区別をつけておらんかっただろ。

松さん：それも法律が改正されたときから、自転車も車として意識しないといけないのよ。

竹やん：じゃあ、一時停止で止まるのか。

松さん：そうだ。地面に足を付けて止まらないといけない。そうしないと、「**指定場所一時不停止等**」という交通違反になる。

竹やん：足を付けないといけないのか。自動車は、スピードを緩めるけど、ゆっくり通過していくぞ。

松さん：それは、交通違反になる。だめだ。

竹やん：でもな、どうして一時停止しないといかんのや。それが分かればよ。みんな守るんと違うか。

松さん：そうか。理由が分かりにくいということか。

竹やん：分からんな。

松さん：そういう場所は、歩道がなかったり、片側にしか歩道がないところだ。しかも歩道の幅が狭いところだろ？

竹やん：そうだけど、通行量が少ないから、めったに交差点で車とかに出会うことはないぜ。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃないや。

竹やん：どういうことなんや。

松さん：どちらの車も一時停止しないと、出会い頭の衝突が発生する。優先道路の方は、一々車が来ないかを確認していたら何回も止まらないといけないから、速度が落ちてしまい、早く走れる優位性が損なわれてしまう。これは社会の損失になる。だから決められた道路の方が一時停止して、安全を確認してから通行するようにしているのだ。

竹やん：なんだって一。難しい話をしたなあ。

松さん：もう一回話をしようか？

竹やん：いえ、分かったような気がします。

松さん：わかったようなではいかんぞ。自転車も、同じように優先道路を走行している車に迷惑をかけたらいけない。

竹やん：横から走って来る車の前に自転車がでたら、運転者がびっくりしてしまうってことか。

松さん：そういうことだ。大丈夫。竹やん、あんたはわかっているわ。

竹やん：そうか、安心した。

松さん：もう一つある。その交差点で、対向車の前を右折するようなことも交通違反だ。

竹やん：どういうことかな。

松さん：「**交差点優先車妨害等**」と言う。交差点で右折する時に、対向車の直進又は左折する進行を妨害する行為と言うんだ。

竹やん：対向車が一時停止したときに、こちらが先に右折することは妨害になるのか。

松さん：タイミングがあるけど、明らかに車が動き出すところに車の前に出ることは妨害になる。

竹やん：なかなか難しいな。

松さん：相手の運転者がびっくりしない程度になれば、大丈夫だろう。

竹やん：やれやれ。まあ、今日は賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

※自転車運転者講習の対象となる危険行為の「信号無視」、「指定場所一時不停止等」、「交差点優先車妨害等」

(作：浜嶋鉦一郎)

2. 自転車は、右側通行したらあかんのか？

竹やん：松さん、自転車の道路交通法が変わったことやけどな。

松さん：竹やん、あんたでも知ってるか。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：それで、竹やん、あんたは自転車に乗ってるか。

竹やん：わいは、どこに行くにもチャリンコや。

松さん：そうか。例えば？

竹やん：買い物やろパチンコやろ、公園やろ、市役所やろ、散髪やろ、後はどこだ、スポーツジム、銀行やろ。

松さん：いろいろ行くんだ。

竹やん：まあ、買い物が一番多いがな。スーパーや商店街ってところかな。

松さん：そしたら、国道も走るのか。

竹やん：走るで。いつも走っとる。

松さん：それで、きちんと車道を走っているのか。

竹やん：走ってるで。歩道は走ったらあかんようになったからな。

松さん：それはえらい！

竹やん：あれ便利やで。左側も走れるし、右側も走れるわ。

松さん：なに？ 右側？ それは逆走している。

竹やん：右側だけど、車とはぶつかれへんで。自転車は前からよく来よるわ。
あれは邪魔やな。

松さん：竹やん、あんたが邪魔だ。ぶつかったらどうするの。

竹やん：相手がよけとる。

松さん：あんたがよけるべきだ。

竹やん：よけたらいいんか。

松さん：ちがうなあ。そういうことではなくて。それは、「**通行区分違反**」とい
うれっきとした交通違反だ。

竹やん：交通違反？ ほんまか。だいたいな、自転車は、歩道を走ったらいか
んやろ。歩道を走っているやつが交通違反と違うかな。

松さん：あんたのいうとおり、それは交通違反かな。

竹やん：だろ？ 俺は交通違反してない。道路走っているからな。

松さん：それはいけない。車は左側通行だ。自転車は車と一緒にだから左側通行
だ。右側を走ったらさっき言った**通行区分違反**だ。

竹やん：そなんん言うたら、歩道を走ったらいかんやろ、それに車道の右側を
通ったらいかん言われたら、左側に横断しないといかんやろ。

松さん：そうなるかな。

竹やん：歩道もあかん。横断歩道もあかんとなると、反対側に行かれへん。わ
いは、ずっと左側を走って行ったら戻ってこられへんわ。

松さん：交差点で渡ったらよろしい。

竹やん：交差点は、横断歩道やで。横断歩道。自転車は、歩道の通行禁止。ど
やねん。

松さん：そうだな。まじめな話、どうしたらいいかな。

竹やん：なあ、松さん、どないして反対側に行くねん。

松さん：横断歩道は、自転車を下りて歩いて渡ったらいいよ。

竹やん：自転車を下りて、歩いたらいいんか。

松さん：歩くことで自転車から歩行者に変わる。

竹やん：そうなんか。でも、なんで歩くのに自転車ひっぱっとらんといかんの。
自転車置いてきたらええやん。

松さん：そういう話をしてるのと違う。あんたは、自転車に乗りたいでしょ？

竹やん：そうやった。そうか。歩いて渡れるんか。そやけど、家を出てからな、
交差点までかなり距離があるで、歩道をずっと歩くんか。
松さん：それは、反対方向に行けば、交差点がでてくる。
竹やん：そこまで車道を左側で走って、そこで歩いて反対側に渡るんやな。め
んどくさー。
松さん：でもそうすれば反対側に渡れる。
竹やん：ちょっと右側の交差点まで車道の右側を走ったらいいかんかな。
松さん：う～ん。ちょっとだけならいいかな。
竹やん：それはあかん、ちがうやろ。
松さん：そうだけど、あんたが困っているって言うから。
竹やん：松さん、あんた、ひょっとして、それをやっとなとちがう？
松さん：ええー？ してない。してない。
竹やん：松さんの家から20mぐらい右に交差点がおますな。さては・・・
松さん：してない。してない。安全第一。安全第一だ。
竹やん：反対側の交差点まではかなり距離がおますなー。
松さん：かなりあるけど、そっちは行っているよ。
竹やん：ほんで右側にも行ってるな。
松さん：まあ、赤信号のときは安全だから。あほ、何を言わせるの。
竹やん：やっぱり違反してるがな。
松さん：それが、すごく便利だからね。
竹やん：松さん、あんたもか。
松さん：ごめんチャ リンコ。

**※自転車運転者講習の対象となる危険行為の「通行区分違反」：道路の中央から
右側部分を通行する行為など**

(作：浜嶋鉦一郎)

3. 自転車は便利だな、歩行者になったり自転車になったり

竹やん：松さん、自転車に乗ってるときいつも悩むことがあるんやわ。
松さん：俺で分かることがあれば教えてあげるぞ。
竹やん：わいは今、自転車は車道を走ることにしてるんだ。
松さん：そうか。それは感心だな。それで、何を悩んでいるの。
竹やん：やっぱり、歩行者になろうか、いや自転車になろうか。
松さん：それが問題だ。

竹やん：死ぬべきか、生きるべきか。あほ、ハムレットじゃないよ。

松さん：ハムレットってわかったか。よく知っているね。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：それで、どうして悩むのだ。

竹やん：だってよ。俺はまじめに車道を走っているだろ。だけどよう、歩道を見たら、自転車の方が多いわな。

松さん：それはしかたがないな。自転車で走っていい歩道もあるから。

竹やん：それはいいとしても、車道を走ったり、歩道を走ったり、ころころ変わるやつがおるねん。

松さん：それはよくないね。

竹やん：それでよう。それを見ていたら、つい俺も歩道を走ろうかなと思うことも多いんだ。

松さん：どうしてそう思うのかな。

竹やん：信号待ちをしているとき、歩道の方がすいすい走れるんやな。どちらかということ、車道は危ないしな。

松さん：それで、歩道を走りたくなってしまうのか。

竹やん：松さんもわかるやろ。

松さん：わかるよ。だけど、そんなに变えても大して早く目的地につけるわけではないよ。

竹やん：それは変わらんかもしれないけど。あいつらの方が早いように思えるんだな。

松さん：そんなことよりも、安全に走る意識が分散して危険になるよ。じっと待っている時間も必要だ。

竹やん：そうかなあ。

松さん：たとえば、信号待ちしている車が10台ぐらいあるとしよう。

竹やん：よし、あるとしよう。そしたら、横をすり抜けていくと早いなあ。

松さん：そう言うと思った。その理由は得した気持になるからだろ。

竹やん：得だぜ。すいすい走れば、歩道を走りたいとは思わんな。

松さん：これは、実際は危険な場合がある。

竹やん：どうしてよ。車が止まっているから横を走るのは安全だろうが。これほど安全なことはないぜ。車はずっと止まっていたほしいな。

松さん：そうはならない。それよりも、自転車がちゃらちゃら横を走ってきたら、車の運転者は自転車の動きがうっとうしく感じる。左折する車は、うっかり後から走ってきた自転車に気付かなかったら、ぶつけてくるかもしれない。

竹やん：それは車が悪いだろう。

松さん：悪いかもしれない。でも、事故が起きたら自転車は車に勝てない。補償費をもらっても、割にあわないからな。

竹やん：そうか、わかった。それで、どうすれんばいいんだ。

松さん：そこを考えよう。あんた、車と同じ気持ちになりなさい。普通、車が走っているとき、止まっている車に追い付いたら、その後ろで止まる。だから、自転車もそうするといいい。

竹やん：前が、その路肩の部分が空いていても、前に行かんわけ？

松さん：そうだよ。カッコいいぞ。前にいる車に自分の存在を気にさせないということだ。後ろから来る車は前を見て走ってくるから、当然あんたの自転車に気が付く。

竹やん：安全第一の走り方ちゅうわけやな。

松さん：そうだよ。安全第一だ。車になりきること。だから、自分の都合のいいときに歩道に行ったり、車道に戻ったりするのはよくない。車にとってまぎらわしい行動をしないことだ。

竹やん：ちょっとせわしないかな。かなり頭を使ってやるからな。

松さん：それがよくない。

竹やん：なるほど。

松さん：だいたい、あんたの歳では歩道は走れない。

竹やん：何？　そこを詳しく教えてくれ。

松さん：歩道は、通常、13歳未満あるいは70歳以上の人しか走ることはできない。

竹やん：そうか。でもな、自転車通行可の歩道は走れるぜ。

松さん：走ると考えたらいけない。徐行で走るから、**時速は7.5km以下にする。これは、走ることにはならない速度になる。**恐らく、空いている歩道に変わろうと考えるのだろうけど、歩道を速く走ったらいけない。

竹やん：だから、車道の方が速いのか。

松さん：そうだ。そのうちに交通違反でつかまる。取り締まりが強化されてくると思うな。

竹やん：みんなが歩道を走っているうちは大丈夫よ。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃないや。

竹やん：わかったよ。やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

(作：浜嶋鉦一郎)

4. けっこう自転車でも歩道を走ってる

竹やん：松さん。この前に自転車が歩道を走ることを聞いたけどな、まだ迷うことがあるんよ。絶対に歩道を走ったらいかんのか？

松さん：そんなことはない。

竹やん：この前はそういう感じでは言っていなかっただろ？

松さん：そうだな。竹やん、どこでそう思ったのかな。

竹やん：あのな、歩道をよく見てほしいんだ。「自転車及び歩行者専用」の標識があるやろ。だったら歩道を走ってもいいのと違うか。

松さん：それに気づいていたか。よく知っているな。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：竹やん、あんたの歳で歩道を走ってもいい場合がある。もちろん、車道を走ってもいい。

竹やん：車道はわかっとるがな。それよりも歩道を走ってもいい場合も知っておけば便利や。

松さん：確かに。それが、「自転車及び歩行者専用」の標識がある歩道だな。

竹やん：よっしゃ、走ったろ。

松さん：おいおい、走ってもいいけど、自由に走ることとは違っているぞ。

竹やん：ええ、そんなんやったら意味がない。

松さん：竹やん、あんたは歩行者の安全について考えているのか。

竹やん：あつ、そうやった。

松さん：歩道は歩く道だ。走る道とは違うんだ。

竹やん：歩く位にゆっくり走るということか。

松さん：そうだ、だから、走るには条件がある。

竹やん：なんやねん、その条件と言うのは。

松さん：基本の走り方は、すぐに止まれる速度ということ、つまり時速7.5 km以下の速度だ。それに、歩道を自転車が走る場所は、歩道の車道側だ。

竹やん：それを守っとったら、歩道を走ってもいいんやな。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃ。

竹やん：なんでやねん。

松さん：歩行者の通行を妨げるおそれがあるときは、一時停止をして歩行者の安全を優先させることを考えながら自転車に乗るんだ。

竹やん：自由がきかんな。

松さん：まあ、歩行者が歩いているときは、少しも走れないと思っておくことだな。

竹やん：歩行者の安全ばかり言うけど、車道で自転車の安全は誰が確保してくれるねん。

松さん：それは、あんたが車道を走っているときに特別に危険だなと感じたら、歩道を走ることができる。誰が考えても車道を走ることの危険性が高く、歩道を通ることが止むをえないと考えられる場合になる。

竹やん：そんなんは、どないなときやねん。

松さん：たとえば、道路に大きなトラックが停車しているとしよう。停車している車線に自転車が通り抜ける余裕がない。その右の車線は車が切れ目なく走っているとする。トラックを追い越すことは、危険ということになる。工事をしている場合もあるね。

竹やん：それは怖いんだ。

松さん：車道を走る時は自分の安全を考えて走る。歩道を走る時は歩行者の安全を考えて走ってほしいな。

竹やん：自転車は楽しくないな。

松さん：そんなことはないよ。自転車専用道や専用帯もある。速く走ることは気持ちいいだろ。

竹やん：そうやな。それが無かったら自転車の魅力は無い。

松さん：もう一つ気をつけてほしいことがある。

竹やん：なんやねん、それは。

松さん：ベルを鳴らしたらいけないということ。

竹やん：歩道で、どけどけちゅうてベルを鳴らすことか。

松さん：どけどけって言ったらいけない。ベルは非常時しか鳴らしたらいけないものだ。

竹やん：確かに、歩いているとき後ろから、「リンリン」鳴らすやつ感じ悪いな。

松さん：歩行者をびっくりさせてしまう。

竹やん：あれは止めないかん。

松さん：そもそも、歩道を通行しているときに歩行者の通行を妨害する行為などは、「歩道通行時の通行方法違反」になる。

竹やん：歩行者優先を徹底することか。

松さん：小さな声をかけるとか、静かに前が空くのを待つことで歩行者の安全を確保してください。

竹やん：なるほどな。やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

※自転車運転者講習の対象となる危険行為の「歩道通行時の通行方法違反」：歩行通行時に歩行者の通行を妨害する行為など

(作：浜嶋鉦一郎)

5. ルールはコミュニケーションとともに

竹やん：わいなあ、ここのところ自転車のルールと自転車の乗り方について、
ほんまによく考えるようになった。

松さん：それはえらいなあ。

竹やん：それでな、いくらルール言うてもうまくいくんかいな。もっと心から
考えないといかんことあるんちがうんか。

松さん：竹やん、あんた、それは深い話だな。

竹やん：ちやかさんとき。たとえばな、パリの凱旋門って言うたな。あそこは
譲り合いの精神で信号が無くてもうまくやっとりらしいで。

松さん：えらいことを知っている。やっぱり深い。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：それでも、日本は信号ばかりだ。

竹やん：わいは、信号を止めたらいいとは思わんけどな。大事なのは、譲り合
いのことや。譲り合うには、顔を見ないとでけへんな。つまり、コミ
ュニケーションが無いといかん。

松さん：いいこと言う。さすが竹やん。

竹やん：そやから、大事なのは、自分の行動を相手に伝えないといかん。何も
せんかったら、次に何をするか相手はわからんのよ。特に自転車は、
ウインカーやブレーキランプが付いていない。

松さん：それなのに、自転車は車と同じ行動をしないといけない。

竹やん：松さん、そうやで。だから、手信号を使おうと思ったんよ。

松さん：左折と右折のときに腕を使う方法かな。

竹やん：右手でも左手でもできるから便利や。

松さん：誰に見せるかで、右手か左手を決めたらいいよ。

竹やん：わいは、右側にいる車には、右手が分かりやすいと思ってる。

松さん：それはそうだな。そのときは左手でハンドルを持つことになる。

竹やん：あ、右手でハンドルを持つ方が得意だわ。

松さん：安全には気をつけよう。道路を直接右に曲がることは少ない。左手で
左折でも十分と思うよ。それで、曲がるときは、両手でハンドルをし
っかり持つ方がいいと思うよ。

竹やん：わいの場合は、それがいいかもしれない。

松さん：止まる合図は知っている？

竹やん：止まる時も合図がいるかな。

松さん：すぐ後ろに車がいたら、合図をした方が安全だ。

竹やん：微妙な場合がある。普通乗用車が路肩に停止しているときだ。車の右は少し間があるから、すり抜けるために、当然わいはまっすぐ進んでいくわな。車から見てすぐわかるだろ。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃないや。

竹やん：どういうことなんや。

松さん：竹やん、あんたコミュニケーションが必要と言っていたのに、合図は無しでいいのかな。行動をはっきりさせることが重要だと思うよ。運転者が、停止するものと思い込んでいたらどうなる？

竹やん：はっ、やばいな。

松さん：だから、右手をまっすぐ水平に出しておけば安心だろう。

竹やん：その場合は、右に出ますという合図やな。わい、それをしようと思ってるねん。

松さん：頑張ってください。

竹やん：そやな。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

(作：浜嶋鉦一郎)

6. うっかりしてしまう危険行為は何？

竹やん：松さん、わいなあ、まだまだ心配なことがあるわ。いろいろ教えてもらったけど、あの講習や。なんかうっかり危険行為をしてしまいそう。だから、わいの知らない危険行為を教えてほしいんや。

松さん：なるほど。でも、普通にしていたら、危険行為をすることなんかないと思うけど。

竹やん：それでも、うっかりや。わい、うっかりしそうな気がしてならない。

松さん：竹やん、あんた、それは心配なことだな。

竹やん：他人事みたいに言わんといて。危険行為をしないためには、危険行為をよく知ることだ。敵を調べて対策を立てることが勝つために必要だろ。松さん、どや、この試合に勝つために戦略が必要だ。わいの専属コーチになりとうないか。

松さん：戦略って、難しい言葉を知っているな。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：それでも、あんたは、それぐらいきちんと考えておいた方がいいな。

竹やん：そやろ。だから、専属コーチになってくれ。

松さん：専属コーチよりも、きちんとした資料があるから、それをいつも自分の近くに置いておくことだな。もちろん、教えてあげるけど、専属コーチの肩書は、ご心配なく。

竹やん：まずは、うっかりやりそうなことを教えてくれ。

松さん：可能性から診断してあげよう。竹やん、あんたお酒飲むなあ。

竹やん：酒は、毎日飲んだるで。

松さん：次の質問や。あんたお酒は、家だけで飲むんか。他で飲むときは自転車を使うことはあるのか。

竹やん：他で飲む時がうっかりしそうなときやな？

松さん：「**酒酔い運転**」の禁止はどうか。飲むときに自転車で行ったらうっかりすることがあるかもしれない。

竹やん：そうか。「**酒酔い運転**」か。よし、飲むときは歩いていこう。

松さん：しっかり守ることだな。それで解決。つぎは、家の周りに鉄道の踏切はあるかな。遠くでも踏切を横断することはあるかな。

竹やん：それはないわ。鉄道はないし、そんな遠くまで自転車に乗ることはない。

松さん：じゃあ、「**遮断踏切立ち入り**」もクリアだな。踏切の遮断機が下りているところに横断しようと入り込むことだ。

竹やん：そんな恐ろしいことはしないよ。死んでしまうがな。

松さん：大丈夫と。多分ないと思うけど、交差点が環状になっているところはあるか。

竹やん：環状線は知っているけど、交差点はないな。それは何？

松さん：環状交差点内を運行する車両等の進行を妨害する行為という「**環状交差点安全進行義務違反等**」だ。

竹やん：そうか、他の人に迷惑をかけることをしなければ、うっかりということはないな。安心したよ。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃ。

竹やん：どういうことなんや。

松さん：いや、うっかり可能性があるのはこれからだ。「**安全運転義務違反**」が危ないぞ。

竹やん：そうかなあ。何があるんだ？

松さん：携帯電話を使いながら自転車に乗ることはないか。自転車に乗っているとき電話がかかってくることはどうか。

竹やん：たまにあるなあ。それがいけないのか。

松さん：それはいい。自転車を止めて電話にできればいいんだ。事故を起こした場合に適用されることがあるらしい。

竹やん：危ない、危ない。自転車に乗りながらすることは、いろいろありそうだな。

松さん：ヘッドフォン・イヤフォンはだめだな。他には傘をさすのもだめ。

竹やん：荷物を荷台に乗せるのはどうかな。

松さん：荷物はいいけど、人間はだめ。二人乗りは法律違反だ。幼児用座席を装着して6歳未満の子供を乗せることは許されている。

竹やん：危険がありそうなことはだめだということだな。

松さん：そうそう、横に並んで通行する「並進」は、禁止だよ。これも歩行者や自動車の邪魔になるからだ。「並進可」の標識があっても2台までだ。

竹やん：これも、友だちと一緒にだったらうっかりやりそうだ。

松さん：お互いが交通ルールを知っていなければ、うっかりしてしまうぞ。

竹やん：そやな。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

※自転車運転者講習の対象となる危険行為の「酒酔い運転」、「遮断踏切立ち入り」、「環状交差点安全進行義務違反等」：環状交差点内を運行する車両等の進行を妨害する行為など、「安全運転義務違反」：ハンドルやブレーキ等を確実に操作せず、また他人に危害を及ぼすような速度や方法で運転する行為※携帯電話を使いながら通行して、事故を起こした場合にも適用されることがあります。

(作：浜嶋鉦一郎)

「自転車の安全な乗り方、走り方」編

1. 大きな交差点はどうやって横断したらいいのかな

- 竹やん：松さん、あの自転車の法律が変わってよくわからないことがあるんや。
- 松さん：俺で分かることがあれば教えてあげるぞ。
- 竹やん：それは、さすが頼りになるな。じゃあな、交差点を通過するとき自転車はどうやって走ればいいのか。
- 松さん：普通に走ればいいことじゃないの。
- 竹やん：それがな、自転車専用帯というのがあるところよ。
- 松さん：竹やん、あんた、えらい専門用語を知っているな。
- 竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。
- 松さん：大きな道路で横断歩道の横にある自転車専用帯のことだな。
- 竹やん：いままでは、歩道を走っていて、交差点では自転車専用帯を走っていたやろ。
- 松さん：それでいいね。
- 竹やん：ところがよ。自転車で車道を走ることになったら、交差点はそこを走らないといかんのか。
- 松さん：ところがそうじゃない。
- 竹やん：だってよ。自転車専用帯だろ。車道をこうやって走ってくるだろ。大きな交差点で自転車専用帯があつたら、そっちへ行かんといかんやろ。
- 松さん：そこが問題だ。自転車は車と同じだから、まっすぐ走ったらいいと考えている。
- 竹やん：だけどよ。自転車専用帯を走ることになってるんと違うか。みんなそう思ってるで。
- 松さん：確かにそうだ。だけど、そうしたら事故が起きるかもしれない。
- 竹やん：なんで事故が起きるんや。安全なところを通るんやろ。
- 松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃ。
- 竹やん：どういうことなんや。
- 松さん：ルールがそれでも、あんた、車道からどういうふうに走って来るのかね。
- 竹やん：それはな、車道を走っているやろ。自転車専用帯は、ちょっと左側に曲がったところから始まるわな。だから、ちょっと左折してから、また右に・・・

松さん：ちょっと待って、そこだ。

竹やん：どこや。

松さん：あんたは左折するから、同じように左折する車も後ろから左折で曲がって来る。

竹やん：俺は、すぐに右に向きを変えるぞ。そうだろ。専用帯を通るねん。どこが悪いねん。

松さん：そうだね。あんたの言うように、右に行ったらどうかな。

竹やん：ほな、曲がらせてもらいますわ。

松さん：ドカーン！

竹やん：なんやね、びっくりするがな。

松さん：びっくりするだけで終わらない。

竹やん：なんでや。

松さん：ドカーン！

竹やん：何度も煩いな！

松さん：そんなふうに怒れなくなってしまうかも。ひょっとして、あんたはそこで倒れてしまう。

竹やん：なんのことや。

松さん：まだわからない？ あんたの後ろから来た車は止まれない。あんたは左折すると思ってるからだ。

竹やん：なに？ 俺が左折してから、車も付いてくる。俺はそこで右に曲がるんや。車のやつ、そこで止まったらんかいな。ちゃんと前を見とかんかいや。

松さん：車は曲がってから安心してスピードだす。止まれない。そこで、ドカーン！

竹やん：ドカーンか。そなあほな……。行かんがな、この専用帯を走ったら。

松さん：やっとわかったな。だから、交差点は、まっすぐ走ったらいいと思わないかな？

竹やん：松さん、あんたさすがやな。ところで、その悪知恵は誰に教えてもらったん。

松さん：悪知恵？ まともな解釈だと思うよ。

竹やん：ここは、よう考えないとあかんな。交通標識とあんたの悪知恵のどちらが正しいか。

松さん：悪知恵と違うでしょ。

竹やん：わいは、あほやから悩ましいわ。

松さん：わからなければ、何も考えずにまっすぐ走ったらいい。その方が身のためだな。

竹やん：そやけど、道の真ん中を走るのは、ちょっと落ち着かんな。
松さん：そうだな。恐いと感じるようだったら、左折で専用帯まで行き、そこで一時停止する。そして、車が後ろから来るかどうかを確認してから渡ればいい。
竹やん：そうするかな。
松さん：それから気をつけてほしいことを、もう一つ教えようか。
竹やん：何でも教えてな。
松さん：交差点をまっすぐ横断するときに、前の方で左折する車が待っているときがあるだろ。
竹やん：おう、ウインカーを点滅させてるやつ、前で左折しようとしている車はあるわな。
松さん：それに近づいたらいけないよ。その車に巻き込まれることもある。
竹やん：左折車がいっぱい続いていたらどうするねん。
松さん：それは焦らずに待つことだ。あんまり前に行かないようにする。
竹やん：ふう。考えているだけで汗出てくるわ。
松さん：そういうことです。それで、さっきの専用帯を渡るときは、専用帯で前から来る自転車にぶつからないように気をつけるといいね。
竹やん：やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。
松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

(作：浜嶋鉦一郎)

2. 出会い頭に気をつけよ

竹やん：松さん、わいこの前危なかったんだ。
松さん：何のことかな。
竹やん：いや、誰もいないところで、道の角をスッと曲がったらびっくりよ。
松さん：向こう側にも自転車がいたって言いたいのかな。
竹やん：なんでわかるの？
松さん：そういうことは経験済みだから。
竹やん：やっぱり確率の問題かな。
松さん：確率？ 難しいことを知っているな。
竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。
松さん：人は何度か道を曲がっている。何回も曲がっていて、そのうち突然出会い頭の衝突が発生するわけだ。

竹やん：でも、ぶつかったわけではないで。

松さん：確率的に言えば、ぶつかり損ねの回数が増えるとそのうちにぶつかることになる。

竹やん：そうか。

松さん：そうだよ。あんたは、そのうちに大けがをするってことになるな。

竹やん：それは困るな。

松さん：もっと困る人がいる。

竹やん：そうかな。俺とは関係ないぜ。

松さん：みんなそう思っているから、反省しない。今に見てみろ。

竹やん：俺にも関係があるってか？ 俺はそう思えないけど。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃないか。

竹やん：どういうことなんや。

松さん：もっと困る人とは、あんたがぶつかったとしたら、その相手の人さ。

竹やん：お互いに困るな。

松さん：いや、あんたが自転車で、相手の人が歩行者だったらどうする？

竹やん：ちょっとわいが困るかな。

松さん：よく聞きなさい。自転車と歩行者がぶつかったらどっちのダメージが大きいと思う？

竹やん：それは歩行者だろ。相手が怪我をしたら相手が困るわな。

松さん：竹やん、あんたほんまに呑気だね。

竹やん：呑気で悪うござんしたね。

松さん：相手を傷つけたら、あんたが悪いことになって保障が発生する。竹やん、あんたはお金をいっぱい持っているか？

竹やん：持っているわけないだろ。

松さん：そうだろ。だから困るのはあんただよ。

竹やん：なんでや。

松さん：保障のお金を用意しないとイケない。あんたは破産だな。一生償わないとイケなくなる。

竹やん：そりゃ困る。

松さん：分かったら二つのことを教えてあげよう。

竹やん：教えてくれ、頼むわ。

松さん：まず一つ目。

竹やん：1つ目だな。

松さん：ぶつからないようにする。ぶつかる確率を低くする。

竹やん：どうやってよ。

松さん：簡単さ。角を曲がらないようにするだけだ。

竹やん：おいおい、松さん、またまっすぐどンドン走って行くのかよ。
松さん：そんなやつはおらんだろ。あんたは、角の近くを曲がったからぶつかりそうになったんだ。よく前が見えなかったからだ。
竹やん：当然だろ。角を曲がれば見えないのは当たり前だ。
松さん：だからね、角を曲がらないようにしたらどうだろう。
竹やん：また、まっすぐ行くのかよ。
松さん：まっすぐ行っても、ぶつかるかもしれない。
竹やん：あんたの言うことは、ほんとにわかんないなあ。
松さん：竹やん、あんたが仮に左に曲がったとしようか。
竹やん：わいは右に曲がったんだ。
松さん：はいはい、どうでもいいけど。よし、右に曲がったとする。そしたら、角を左側から曲がるようにしたらどうなるかな。
竹やん：そりゃあ……。ぶつからないか。でも左からでも相手はくる。
松さん：それでもいい。ぶつかる前に相手が見えるはずだ。見えたら回避できる。結果はぶつからない。
竹やん：あ、なるほど。わかったわ。なんだ、大回りするってことか。
松さん：それを先に言うな。俺が教えることだ。
竹やん：よしよし、二つ目はなんだ。
松さん：簡単だ。自転車の保険に入ることだ。
竹やん：なんでよ。自動車じゃあるまいし。
松さん：だから、みんな困っているの。保険に入らないから保障ができない。あんた、1億円のお金を持っているの？
竹やん：1億円？　なんでそんなに要るの？
松さん：過去の判例がある。だから、自転車保険は1億円の保険をかけておかないといけない。
竹やん：自転車を止めようかな。
松さん：そんな不便なこととはできないだろ。だから、きちんと保険に入りなさい。
竹やん：松さんは、入っている？
松さん：当然でしょ。
竹やん：わいもすぐに入るわ。
松さん：大事なことは、角があつたら、必ず大回りで回ることだよ。
竹やん：やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。
松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

（作：浜嶋鉦一郎）

3. そもそも車道のどこを走ると安全なの？

竹やん：松さん、わい車道を走るんやけど、どう考えても安全とは思えないんや。

松さん：それはどうしてかな。あんた、車道のどこを走ってるの。

竹やん：わいはな、車に遠慮してるから、車道と側道の境界とか白線の上かな。

松さん：それは危険だ。

竹やん：そうやろ、いつもそう思いながら走ってるねん。

松さん：自転車は車と同じだから、車線の中を走ったらいい。

竹やん：それが、車との距離を保つためについ側道を走っとる。そこには、グレーチングっていうんかな。鉄製の枠があるやろ。

松さん：竹やん、グレーチングを知っているのか。えらく専門的だね。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。グレーチングは、雨を流すためにあるんや。

松さん：それは、時として滑ることがあるから危ない。

竹やん：側道は危ない、車道も危ない。だから安全な気持ちで走れないんだな。どこを走ったらいいか教えてくれ。

松さん：それはね、今言ったように堂々と車道を走るんや。そんな、端っ子を走っていたら危ない。

竹やん：せやけど後ろから車が近付いてきたら怖いやんか。

松さん：端っ子を走っているから、車が追い抜きしやすくなる。もっと右側を走っていたら、追い抜きができない。だから、安全になる。

竹やん：そうかなあ。信じられへんけどな。とにかく左に寄っていたら安全や。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃ。

竹やん：なんでやねん。

松さん：自動車の方も、自転車が怖いと思っている。事故を起こさないように考えている。例えば、2車線道路だったら、対向車がくるときには絶対追い越しをしない。自転車との距離を置くために、センターラインを越えて追い越すから、対向車があると危険になるからだ。

竹やん：わいが車道を走っていたら、後ろの車が、わいを追い越すのに自転車との間隔を空けるやろ。センターラインをオーバーしていくから、対向車とぶつかるってことか。わいが左に寄ると余裕ができて、追い越ししたくなるかもしれん。

松さん：だから、左に寄っていると、追い越せると思って近くを走ることになるから危険だ。車線の中央よりを走っていたら追い抜きをかけられない。

竹やん：それも後ろの車に気を使うな。

松さん：気を使っていたら疲れる。前をよく見て、対向車が来なくなったら追い越されるから、それまで平気で楽しく走っていたらいいのよ。

竹やん：そうかいな。

松さん：側道を走るのは絶対だめだよ。側道は走る所ではないからね。

竹やん：でもな、道路改良でグレーチングも細くなったり縁石の下に置くようになってきた。走りやすい。

松さん：以前よりは走りやすくなったけど、左に寄りすぎるのはやっぱり危険だな。

竹やん：わかったわ。ちょっと右の方を走ってみるわ。

松さん：ついでに一つ。知っていると思うけど。車道から歩道に入る時は、何か注意していることはあるかな。

竹やん：簡単には、歩道に入れないやろ。ガードレールや縁石があるからな。

松さん：普通に走っているときではない。自分の意思で歩道に入るのは、お店に立ちよるとかで車道を離れるときだ。

竹やん：うーん。特にな。気をつけていないな。

松さん：そうか。注意することはないか。じゃあ、やめておこうか。

竹やん：そないに意地悪せんでええやろ。教えて！

松さん：じゃあ、車道と歩道の間は、段差があるでしょ。ほとんどの場所で段差がある。車道と段差は平行になっているから、タイヤが滑ってうまく乗り越えられないときがある。そうすると転倒してしまう。

竹やん：あっ、やったことがある。ずるずると滑って、自転車が別の方向に滑るからこけてしまう。

松さん：だよな。だから、そういうところは、しっかりとタイヤの角度を付けて回るとい感じかな。前輪がうまく乗り越えても角度が少ないと後輪が滑ってしまう。

竹やん：ついでも含めて、まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

(作：浜嶋鉦一郎)

4. 道路にあるものの安全性を教えて

竹やん：前は、ちゃんとした道路の上の走り方を教えてもらったけど、ほかに気をつけないといけないものもいっぱいありますな。

松さん：細かいところも気になっているか。

竹やん：そりゃあ、地元の道もあれば、田舎道もいろいろ走るさかいな。

松さん：俺の知っていることしっかり教えてあげるわ。

竹やん：よろしゅうお願いします。

松さん：もう一度、復習になるけど、路面で危険なのは、タイヤと並行となる進行方向の段差や車道と路肩の境界が一番多い。

竹やん：あれな、路肩ぎりぎりに走るから、いつも邪魔になっとる。

松さん：そういう意味でも車道の方を走るほうがいい。それから、歩道に移動するときだったね。

竹やん：それは、失敗が多かったから、もう大丈夫や。

松さん：グレーチングはもうわかってるね。意外と多いのがマンホールの蓋だ。鉄の蓋は、滑りやすいから、蓋の上を走らないようにしよう。

竹やん：そうやそうや。気をつけよう。

松さん：歩道を走るときに、道路の角で縁石が斜め方向を向いているところで、そこをまっすぐ走ると滑ってしまうことがある。

竹やん：歩道に乗り上げるときと同じ状態になるんやな。

松さん：そういうことだ。気をつけてね。

竹やん：歩道の上はいっぱいあるな。

松さん：歩道はゆっくり走るから、まあ、いいでしょう。速く走ろうと思っても、凸凹になっている場所はある。それよりも、歩道は歩行者に気をつけることが大切だ。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：歩道では自転車とのすれ違いも多い。

竹やん：すれ違いはどっち側を走ればいいんや。

松さん：それぞれ左側になるけど、相手の動きを見て決めることだ。最初に気付いたときの位置を基本にするか、すぐに左側に移動するかだ。直前は危険だ。速度を落とすことが、鉄則だ。

竹やん：駐輪にも問題があるな。

松さん：駅の駐輪場はいっぱいだからね。

竹やん：いっぱいなら適当なところに置いてもかまへんのか。

松さん：それはだめだ。歩行者の安全な通行の妨げになったり、緊急車両の通行の障害にならないようにすること。必ず、許可されている場所に止めよう。

竹やん：やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

(作：浜嶋鉦一郎)

「自転車の安全装備」編

1. 自転車の点検で安全に自転車に乗ろう

竹やん：松さん、自転車の点検が大事だと言われるけど、わいはほとんどしたことが無いけど大丈夫かな。

松さん：そんなことはないだろう。基本的な点検は、誰もがやっているはずだ。

竹やん：自転車屋にも行ったことが無いしな。

松さん：それでも、自分で空気を入れたりしてるだろ。

竹やん：それぐらいはするよ。

松さん：だから、それが点検というものだ。自分で空気圧を調べているから、空気を入れるのだ。

竹やん：そんなんで、できているとっていいのか。わいは、点検するところについて「ぶたはしゃべる」という言葉を何かで読んだことがある。

松さん：竹やん、それ専門家並みだね。

竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。

松さん：空気を入れることは、ぶたの「た」のことだ。

竹やん：「た」って何？

松さん：タイヤの「た」のことだ。タイヤに十分空気が入っているか。ダイヤはすり減っていないかを自然に見ているだろ。

竹やん：見ているよ。自転車に乗った時に、まずタイヤがどれくらいへっ込むかを見るな。だってよお、空気が足りないと走りにくいだろ。

松さん：そうだよ。他には？

竹やん：ブレーキをかけて見る。まあ、ちゃんとブレーキはかかるよ。家に帰って来たとき、自転車置き場で、「キー！」って音をさせて調子を見るだろ。やっているよ。

松さん：じゃあ、安全だな。

竹やん：あっ、ぶたの「ブ」はブレーキの「ブ」か。

松さん：そういうことだ。ブレーキが不良の場合は、「**制動装置（ブレーキ）不良自転車運転**」の危険行為になる。ブレーキ装置がなかったり、ブレーキの性能が不良な自転車で走行する行為という意味だ。

竹やん：残りはどういう意味なんだ？

松さん：「は」は、反射板。自転車の前後やペダルに付いている。

竹やん：まあ、ぶつかったりしていないから、ちゃんとついているよ。

松さん：「しゃ」は、車体の意味だ。自転車の中心のフレームに亀裂やサビが発

生していないかを見る。あと、ハンドルはがたがたしていないか。サドルはぐらぐらしていないか。チェーンはしっかりしているか？

竹やん：あたぼうよ。そんなの乗っていれば分かるってもんだぜ。

松さん：竹やん、あんたは、ちゃんとチェックしている方だ。

竹やん：「べる」って、ちりんちりんのベルだな。全部OKだ。やったー。

松さん：完璧かな。

竹やん：だってよう、この1カ月ばかり前に新車を買ったんだ。「ぶたはしゃべる」は、完璧だ。間違いない。

松さん：そう思い込むことが一番危ないんじゃない。

竹やん：どういうことなんや。

松さん：その新車は、買ってから初期点検を受けたのか。

竹やん：受けるわけねえだろ、新車なんだぞ。

松さん：だから危ない。新車を購入したら1～2カ月のうちに初期点検を受けないといけな。それをやっていない。それに1年に1回は専門家による点検も必要だ。

竹やん：だってよ。さっき言ったみたいに自分で毎日やってるからな。

松さん：それでも、詳しく点検してみないと大きな欠陥が発生していることがあるかもしれない。それが、自分でわかりますか。

竹やん：そういう点検はしたことはないし、そんな能力はないわな。

松さん：じゃあ、ちゃんと点検を受けることだな。点検は安全のためだ。

竹やん：そうだな。安全第一だな。今度行って来るよ。

松さん：ちゃんと自転車屋に行くんだぞ。

竹やん：やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

※「ぶたはしゃべる」：安全点検の点検の合い言葉

※自転車運転者講習の対象となる危険行為の「制動装置（ブレーキ）不良自転車運転」

（作：浜嶋鉦一郎）

2. もっと積極的な安全チェック方法は無いかな

竹やん：松さん、この前はありがとう。初期点検に行って来てすっきりしたわ。

松さん：それはよかった。

竹やん：自転車屋の話によると、空気圧は、ほとんどの人が低すぎるらしい。

わいは、よくやっているとほめてもらたわ。

松さん：それは、優秀だ。

竹やん：特に子どもたちは、空気圧に無関心らしい。体重が少ないからかな。

松さん：そうかもしれんし、近所を走る程度であまり長距離の移動はないからだろう。

竹やん：松さん、知っていたら教えてくれ。なんかもっとかっこいいテクニックみたいなものはないんか。

松さん：そうだな。大人は、快適に乗ることを考えるといいな。

竹やん：と言うと？

松さん：正しい姿勢が好ましいな。疲れにくくする姿勢がある。

竹やん：それはどうするんだ。

松さん：体重は、3点に掛けてペダルをこぐんだ。背筋を伸ばして、ハンドル、ペダル、サドルの3点に体重がかかる姿勢だ。手と足とおしりの3点とも言うかな。

竹やん：ちょっと前かがみになる姿勢かな。

松さん：おっ、いい感じで理解したな。そういう絵になるな。

竹やん：よせやい。それぐらいはわかるがな。

松さん：この姿勢を取るには、サドルを高めにするのがポイントだ。

竹やん：ハンドルが高いとふんぞり返るからな。サドルを少し高くしているぜ。

松さん：よしよし。もうひとつ。これはどうかな。ペダルは、楽に踏めているか。

竹やん：あまり意識しないが、全体で踏んでいるから、まあ調子はいいぜ。

松さん：厳密なことを言うと、短距離走のときには、つま先で走れというだろ。あれは、力が入りやすいからだ。ペダルも足の前の方、専門的には拇指球というところをペダルの中心にのせると楽にこぐことができる。

竹やん：そうか。でも、ちょっとペダルから外れやすいから、もう少し下が踏みやすい。

松さん：それでもいいか。わかっていれば、力を出すときにそうしたらいい。あるいは、ハーフクリップというのがある。

竹やん：それはなんだ。

松さん：足先を固定できる。ペダルを引き上げるのも便利だ。

竹やん：めんどうな器具だな。

松さん：実はね、ペダルは踏み込むだけでなく、引き上げる力を利用すると、もっ力が入りやすくなる。踏み下ろすだけではもったいない。

竹やん：そういう考え方もあるか。

松さん：ついでに発進のときにペダルを踏み込む位置はどうかな。

竹やん：別にどこからでも大した違いは無いんじゃないかな。
松さん：そう思い込むと楽にならないな。
竹やん：どういうことなんや。
松さん：発進は、ふらふらしないように確実に動き出すことが重要だ。だから、
楽に発進できる踏み込みをしてほしいな。
竹やん：どこから？
松さん：それは、真上より少し前の角度だな。力がはいりやすく、楽に発進で
きる。一度やってみてはどうか。
竹やん：今回は、安全だけでなく、快適に自転車に乗ることを教えてもらった
な。
松さん：ますます、自転車が楽しくなったろ？
竹やん：そうや。ありがと。まあ、今日も賢くなったわ。
松さん：みんなが、あんたのように賢くくなってほしい。じゃあ、またな。

（作：浜嶋鉦一郎）

3. 安全対策装備を高めよう

竹やん：松さん、今日は、レベルアップをしたいと思ってやってきたんだよ。
松さん：レベルアップ、最初から突拍子もないことから始まるのかな。
竹やん：わいは、真剣やで。自転車の安全運転を考えたら、自分でもできるこ
とがあるんじゃないかなと思ったわけよ。
松さん：ほう？
竹やん：だからよ。松さんの知っていることのおすそ分けを願いたんだけどね。
松さん：いっぱいあるからしっかりと勉強が必要かもしれないな。
竹やん：いや、順番でいいよ。わいの頭に入る程度でいい。まずな、事故に合
わないようにすることをいくつか見つくり出してくれよ。
松さん：寿司を握るんとかがうんだから。
竹やん：そのな、安全対策装備というのはどうか。
松さん：難しい言葉を知っているな。
竹やん：よせやい。それぐらいは知ってるわい。
松さん：そうか。博学だな。自分でもできることでいくつか・・・。
竹やん：見つくりしてくれ。
松さん：しょうがないな。あんたという人は。
竹やん：例えばよう、服装とか、自転車に取りつけるようなものはどうだ。

松さん：あんたの方が先生か？ 自転車には、そうそう、あんたはバックミラーをつけているか。

竹やん：ありゃあなあ、自動車には付けてるけど、なんで自転車に付けるんだ。

松さん：あれ、あんたの後ろに奥さんがいるよ。

竹やん：なに？ なんだろう、いねえじゃないか。

松さん：いないよ。今、後ろを見た時どうだった？ 体が大きく動いていただろ。自転車に乗っていて後ろを見るのは楽にできているか。

竹やん：そういやあ、車の確認がちょっと見にくいんだ。

松さん：車が来ているのに気付かないで横に移動したり、飛び出したりすることはないのか。

竹やん：はは、見切り発車だ。

松さん：怖いことをしているな。後ろを楽に見れたらいいだろ。

竹やん：そうだな。いつも困っているわ。

松さん：じゃあ、バックミラーを付けたらどうかな？

竹やん：ださいな。そんなやつはおらんだろう。

松さん：俺はつけてるよ。

竹やん：それはおみそれしやした。付けます。付けます。

松さん：竹やん、一つ終了だ。

竹やん：もっと安全なやつをお願いします。

松さん：もっとなんてのはない。それでは服装はどうかな。黄色とグレーの色では、どちらがいいと思う？

竹やん：黄色はいけないよ。昔から黄色ってのはあまりいないよ。自動車でも自転車でもあまり見たことはないよ。俺はグレーが好きだな。

松さん：なんの勉強をしているんだか。あんたの好きな色を聞いているんじゃない。自分の安全というのは相手、自動車や自転車から、自分がはっきり見えることが重要だ。そのために色を上手く使ってはどうか。

竹やん：なんだ、そういうことか。すんません。

松さん：黄色は、交通安全の色だろ。自分の服などで目立つ色や明るい色を使えば、あんたのいる場所がすぐに分かってもらえる。服がだめなら、自転車に色を使うんだ。特に夜はわからないぞ。自分が見えることよりも、相手が自分が見えることを意識しておかないといけない。白とか黄緑とかもいい。

竹やん：なるほど。なるほど。さすが松さん。

松さん：だから、前照灯は重要だ。こちらの存在を相手に知らせるのが役目だ。前が見れるからライトをつけないのは、自分が危険になる。さらに、反射器を使おう。前方反射器、後方反射器、ペダル反射器、タイヤ反

射器というのがある。ただ、これは光が当たらないと光らない。無灯火の自動車や自転車、歩行者からは見えない。

竹やん：なるほど、自分でできることばかりだ。

松さん：事故が起こさないための装備だな。事故が起きたとして被害を少なくする働きのものもある。

竹やん：それはわいにもわかるんだ。ヘルメットのことだろう。

松さん：そうだ。よくわかったな。他にもある。同じ考え方だ。

竹やん：よおし、考えよう。転んだら怪我をしないようなものだな。手袋だ。どうだ、参ったか。

松さん：勝負しているわけではない。まだ、参らない。

竹やん：服は、長袖や長ズボンがいいのかよ。俺って賢いな。

松さん：ずいぶん賢くなったな。もう一つ頑張って考えてみよう。

竹やん：いや、もう頑張れねえ。

松さん：じゃあ、参ったか。

竹やん：勝負じゃないんだ。教えてくれ。

松さん：そうだな。メガネのようなものはどうかな。目に飛んでくるものを避けられる。

竹やん：サングラスでもいいのか。

松さん：いいね。紫外線も飛んでくるから。石ころなんてのもはずみで飛んでくる場合がある。

竹やん：やったあ。そうそう、わい、なんか自転車を漕ぐときに力が入りにくい感じがするんだよ。なんでだろう。

松さん：そうか、いろいろ理由が考えられるけど、自転車の装備の話だから。ちょっと聞くけど。あんた、自転車に乗った状態で、足はどんな感じになっているんだ。

竹やん：とても楽だぜ。

松さん：楽なら問題はない。

竹やん：足の両側が地面にバッチリ付いているからよう、止まっているときにめっちゃくちゃ安定しているぜ。

松さん：それだ。

竹やん：なにが。

松さん：力が入りにくい理由だ。

竹やん：立っているときには力が入らなくて楽だぞ。

松さん：ペダルを回すときはしんどいだろう？

竹やん：足が、くの字になって力をいれるからよう、膝が痛いわ。

松さん：それは、力が伝わっていない状態だ。サドルを上げたらいい。

竹やん：そしたら、自転車にまたがったら倒れるぞ。一度やってみたんだ。

松さん：自転車は、自転車に乗った状態が楽で快適でないといけない。今度見てやる。自転車を持ってきたさい。

竹やん：持ってこいというのは、自転車を担いで来るのか。

松さん：そうだ、手にぶら下げてこい。あほか、何を言わせるんだ。

竹やん：冗談だよ、乗ってくらあ。

松さん：サドルを上げてから、乗り方も教えてやる。

竹やん：やれやれ。まあ、今日も賢くなったわ。

松さん：みんなが、あんたのように賢くなってほしい。じゃあ、またな。

（作：浜嶋鉱一郎）